

2022年度 事業計画

A 職員人事

1 2022年度教職員名簿

◇校 長(1名)(兼務健康管理医1名) 黒 岩 敏 彦					
◇事 務 所 事務局長(1名) 佐 藤 眞喜子					
事務職員(若干名)					
事務次長	磯 田 典 子	事務課長	衣 川 美 佳		
教務担当	生 沢 好	経理担当	井 越 みちよ		
教務担当	山 内 奈津子				
◇看 護 学 科 副校長(1名)					
教務部長(1名) 谷本 千亜紀					
実習調整者1名/専任教員8名以上					
<三 年 課 程>					
教務主任	上 野 佳 穂	副教務主任	姫 田 真 弓	実習調整者	大 井 ゆかり
教 員	白波瀬 裕 美	教 員	山 口 知栄子	教 員	
教 員	長 岡 宏 子	教 員	渡 邊 由 美		
教 員	鍋 島 純 子	教 員	藤 澤 玉 美		
教 員	姫 井 智 子	教 員	北 澤 小夕里		
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 副校長(1名)					
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 教務部長(1名) 小 澤 優					
<第一臨床検査学科>		<第二臨床検査学科>		<臨床工学技士専攻科>	
教務主任 (1名)	小 西 靖 志	教務主任 (1名)	小 澤 優 (兼務)	教務主任 (1名)	泉 田 洋 志
(教員は2学科を兼務)(7名以上)				(3名以上)	
教 員	居 内 早 希	教 員	林 敬 子	教 員	飯 田 安 彦
教 員	五十川 團 哉	教 員	宮 井 優	教 員	多 田 俊 介
教 員	小 川 秀一郎	教 員		教 員	古 谷 仁 志
教 員	木 澤 明 宣				
教 員	後 藤 直 樹				
教 員	中 前 雅 美				

2 各種委員会担当者一覧

委員会名	看護学科三年課程	臨床検査学科	臨床工学技士専攻科	事務所
防火委員会	長岡	五十川	多田	衣川
新聞委員会	山口	小川	飯田	*佐藤 生沢
学校祭準備委員会	*白波瀬	宮井	多田	井越
体育祭委員会	渡辺	*木澤 五十川		山内
まちの保健室委員会	白波瀬	*林	泉田	磯田
福利厚生委員会	鍋島	居内	多田	*衣川

(注) *印は委員長

B 学生在籍状況及び担任一覧

区分	学年/期生	在籍数	教室番号	担任	
看護学科三年課程	1年/44期	41	302	長岡	鍋島 渡邊
	2年/43期	40	305	姫井	白波瀬
	3年/42期	40	303	姫田	山口
	計	121			
第一臨床検査学科	1年/50期	37	101	宮井	
	2年/49期	26	102	居内	小川
	3年/48期	40	103	中前	
	計	103			
第二臨床検査学科	1年/50期	12	101	木澤	
	2年/49期	17	102	林	
	3年/48期	12	201	五十川	
	4年/47期	25	202	小西	
	計	66			
臨床工学技士専攻科	25期	25	203	飯田	多田
合計		315			

C 事業計画目標

学校経営の環境は、少子化や4年制大学の台頭などにより受験生確保が一段と厳しい状況になっている。令和2年度学校基本調査より2021年3月に高等学校を卒業した生徒は、1,020,294人でうち大学・短大への進学率は58.9%、前年より0.3ポイント上昇、専門学校進学率は24.0%で横ばいであった。また就職を希望した高校生は14.6%である。

2022年度の学校目標を以下の通りとした。

目 標：「実践力のある医療人の育成」

看護大学の台頭、18歳人口の減少など学生募集状況は非常に厳しい中ではあるが、本校に入学し卒業していく学生を実践力のある医療人として育成することを目指したいと考えている。

本校は、学校案内やホームページに「本校だけの6つの特徴」を示している。1. プロの講師陣から**現場のリアル**を学べる。2. 1年で臨床工学技士との**ダブルライセンス取得**。3. 夕方から学べる**夜間コース設置**(臨床検査学科)。4. **3年連続全国平均以上**の国家試験合格率達成。5. つねに**就職率100%達成**。6. 経済的理由で修学継続をあきらめない**手厚い支援**。以上の点に力を入れながら学生募集につなげていきたい。

学生たちは自分で掲げた自己目標の達成を目指し、指導を受けているがその中で明るく、のびのびとした学生生活を送っており、オープンスクールに来た受験生の本校を選んだ理由の第一位は「学校の雰囲気良かった」である。学生同士、教員と学生の関係が良好であることが大きな特徴である。このような学校生活を経たのち卒業した学生を、さすがに本校の卒業生はここが違うと言われるような人材に育成していきたい。

1. 基礎学力定着

基礎学力を定着させ、学習への意欲を引き出す。

①学生の学修習慣の定着

現在の学生は学修習慣がきちんと定着していない者が多く、入学後、学修習慣の定着を最初の目標とする。臨床検査学科で取り組んでいる月曜テスト(週1回月曜日に小テストを実施)や各学科で取り組んでいる小集団指導などである。

②基礎学力向上のための取組み

現在の高校での理科系の授業は、基本的内容の授業に留まっていることが多く、本校に入学して来る学生のほとんどが、理系分野の基礎学力が低下している傾向にある。しかし、看護師、臨床検査技師になるためには生物や化学の基礎学力は必須であるため、入学初めの時期に全学科学生対象にリメディアル教育(補習授業)を実施している。また推薦入学試験後入学まで期間を有効活用できる入学前学習(進研アド)を紹介し、入学前の事前学習をよりきめ細やかに行えるよう取り組んでいく。臨床工学技士専攻の入学生においても、専門基礎科目の内容をしっかりと固めてから専門知識取得に取り組んでいる。

2. チーム医療への取組

①積極的な学科間交流

新型コロナウイルス感染防止により、集団での行事が制限される中で、リモートによる「チーム医療セミナー」など今年度もできる限り学科間交流ができるよう取り組んでいく。

授業に関しては看護学科教員が体位変換・車イス、ベッド移乗の技術演習を臨床検査学科の学生に行い、臨床検査学科教員が心電図検査・検体検査についての講義・実習を看護学科学生に行い、同様に臨床工学技士専攻科の学生に看護学科及び検査学科の教員が授業し、各学科の教員が他学科の授業を通して交流を図っている。

②サークル活動支援

各学科の垣根を越えて、放課後等の時間を利用してサークル活動をすることを学校が支援している。活動場所の提供や活動援助金を助成している。

3. オープンスクールへの取組

実践力のある医療人として育てるための一つとして、「判断能力に優れた医療人」という事も上げられる。自分たちの力で考え、実践できるというプロセスにおいて判断能力が養われていく。その中一つに在校生が企画・運営しているオープンスクールへの取組がある。今年度は6月から実施予定であるが、新型コロナウイルス感染の状況を見ながら、在校生の参加を検討したい。

4. 学生生活への支援

学生の生活への支援は、学生生活を充実させるためのもので、それによって教育的な効果や人間的な成長を促すことができる。

①学生相談室におけるカウンセリングの充実

臨床心理士の先生にカウンセリングを依頼し、悩みをかかえている学生たちが気軽に相談できる学生相談室を実施している。

②情報通信技術（ICT）を活用するための基礎能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容の充実

今年度より看護学科のカリキュラム改正により情報通信技術（ICT）の活用に取り組んでいく。学内ネットワークについては充実したものとなり、今後は活用方法を検討していく。

③アメニティの段階的な向上

学校内のアメニティを順次更新している。学生が生活しやすい空間作りをしている。

5. 学生募集計画

現在、大学生の就職内定率は2021年12月の発表では95.2%でコロナ前と同水準となっている。また高校生の就職内定率は75.1%（2021年10月）でこちらもコロナ禍前に迫る勢いで、内定が遅れている企業もありこれ以上になると思われる。専門学校においては、就職内定率はほぼ100%であり学生募集活動の大きな力となっている。

また、看護大学との差別化を図るため、専門学校は職業人の育成であり、「実践力がついた卒業生」「人間的に成長した卒業生」というキャッチフレーズを、全面に出していきたいと考えている。

①入学試験の改革

2022年度の受験生は第二臨床検査学科で激減している。定員の確保が非常に難しい状況である。働きながら夜学で学ぶという姿勢が受験生には受け入れられない状況になってきているのではないかと考えられる。世の中の状況を見ながら今年度は1年間かけて第二臨床検査学科の学生募集を今後続けるかどうかの検討に入りたい。

第二臨床検査学科をなくした場合残りの学科で学校運営をしていくには学費の値上げが必要となる。その場合30万円から40万円の値上げとなるため、それで学生募集ができるかどうかの検討、また、第二臨床検査学科に変わる新しい学科の新設などの検討に入りたい

②見学会および説明会

a. オープンスクール

オープンスクールは、体験を主体とし実施するが、定員が限られているためオンラインも同時開催とする。

b. 学校見学会

学校見学会は、学校全体のPRを目的として行う。

c. 再進学者説明会

大学卒業後に専門学校へ進学を希望する人や、社会人として働いたのち専門学校へ進学を希望する人達向けの説明会である。実施時間は午後6時からである。

d. WEB相談会

オープンスクールへは保護者の参加を断っているが、特に検査学科は保護者への呼びかけが大事であることからWEB相談会を実施している。この相談会は、受験生も保護者も参加できる、夜の時間帯に設定している。

以上の説明会については新型コロナウイルス感染防止のため、オープンスクールでは定員を設けること、またそれぞれの会において「密」にならない工夫をしながら実施していく。

e. 学校訪問

京都の高校訪問を継続する。近郊の高校へは何度か訪問している。新型コロナウイルスの件が落ち着いたら地方への高校訪問を再開する。

f. 臨床検査学科の学生募集活動

臨床検査学科の学生募集については重点的に取り組んでいるが、受験生の確保が難しくなっている。何度も高校へ訪問したり、業者主催の説明会には必ず出席する等している。

g. 臨床工学技士専攻科の学生募集活動

臨床工学技士専攻科は毎年受験生確保に苦慮している。崇城大学との連携校入学試験が始まり2022年度生は6人の入学が決まっている。2023年度生も同程度が受験予定である。指定校からの確保や臨床検査技師専門学校への説明会などをコロナの感染状況をみながら実施している。内部進学者への取り組みも含め方針を立て定員確保を目指していく。

h. WEBサイトを使った広告

高校生の進学先調査をした結果、京都府は大学進学率66.5%、専門学校進学率13.7%である。大阪府は大学進学率59.7%、専門学校進学率15.4%で、地方では専門学校進学率が高い状況がある。新潟県は30.5%、高知県17.3%、鳥取県18.8%となっている。現在新型コロナウイルス感染の事もあり、地方の学校説明会に行く事が難しいためWEBサイトに広告を出し、インターネットで検索できる機会を増やそうと計画している。

6. 学生への啓発運動

①情報リテラシー(適切な活用)教育

スマートフォンやタブレット端末の普及により、学生がネットトラブルに巻き込まれることや学生自身が発信した情報が不適切であったり有害である場合もあり、今後情報リテラシー(適切な活用)について教育していく。2019年度より、京都府警察本部サイバー犯罪対策課ネットセキュリティ・サポートセンターに講師派遣を依頼し講演会を行っている。

②危険ドラッグ乱用防止

危険ドラッグ防止啓発運動について京都府より防止指導員の推薦や学生啓発リーダーなどを推薦している。また、上京警察より学生向け講義のDVDを借りて、新生活をスタートする1年生に視聴させ、危険ドラッグ防止の取組を行っている。

③禁煙活動

本校では平成15年5月健康増進法の施行を受け、同年8月より学内を全面禁煙、また学校周辺地域も全面禁煙で進めてきた。また、「NPO法人京都禁煙推進研究会」に加盟し、新入生の禁煙教育、各学年の禁煙教育をしている。

7. 地域への貢献

地域社会に情報を発信したり、地域社会への貢献を広めたりすることで、学生募集につなげたい。市民公開講座は、新型コロナウイルス感染防止の状況を踏まえ実施計画を立てる。

8. 定年延長への取組

京都私立病院協会を中心として5団体で就業規則等の変更を検討してきた。その中で定年を65歳まで延長し、継続雇用を70歳までとすることを検討してきた。5年間の延長により今後の働き方を学校単位で検討していくようにする。

9. 看護学科カリキュラム改正による運営・臨床検査学科カリキュラム改正による運営への取組

①2022年4月より指定規則の改定によりカリキュラムが改訂された。2022年4月入学の新入生より新カリキュラムでの運営が始まる。看護学科ではeテキストを用いての授業となる。

②臨床検査学科も同じく新カリキュラムでの運営である。

新カリキュラムで新たに追加された項目は、認知症検査、地域包括医療、タスクシフト、多職種連携とチーム医療などである。また臨地実習は7単位から12単位に増加し、この中に臨地実習前技能修得度評価1単位が含まれ、臨地実習前に学内で評価を行う事になる。これらを前提にICTは継続しつつ対患者・対人業務を意識した指導内容・方法を取り入れていく。

10. 自己点検、自己評価について

2022年4月のカリキュラム改訂で学校自己点検、自己評価が必要となってくる。学校機能評価を充実させる必要がある。学校機能評価委員と協力しながら評価により良い学校運営ができるよう取り組んでいきたい。

1 教育実践計画

【教育目的】

人々の健康を高め、命とくらしを守るために、看護の本質を追求し、変化し続けられる看護実践者の育成を目的とする

【ディプロマ・ポリシー】

1. 人間を理解し、対象の生命とくらしを尊重し支えることができる
2. 根拠に基づき、対象に応じた看護を実践できる
3. 専門職業人として、自ら看護を継続的に追求できる
4. チームの一員として自己と多職種の役割を理解し協働できる
5. 保健・医療・福祉のニーズを理解し、自己の役割と責任を理解できる

教育目的が達成できるよう新カリキュラムの具体的運用を検討し実践していく。

1) 活用できる知識の定着を促し、入学してきた学生を大切に育て国家試験合格へつなげる

- ・ 1 年次から学習の動機づけを行い、学生が学習方法を身につけ主体的に学習できるよう、全教員が指導方法を検討・実践する
- ・ 学年担当を中心に学生の現状を分析し、課題解決のための方針を明確し、全教員で支援する
- ・ 単位修得が確実にできるよう支援する

2) 学生の学びを促進する教育方法を身につけ、一貫性のある教育を提供する

- ・ 研修会・学会参加・研究活動を奨励する
教育実践を研究的視点でまとめる
- ・ 授業研究を行い、質の高い授業・演習を実施する
教育実践を共有しお互いの教育実践から学び、客観的評価を受け授業の質の向上をめざす。教員間の風通しがよくアサーティブな関係づくりをめざす。年間計画を立て、1 人 1 授業を実施する。

3) 看護職をめざす受験生の獲得をする

- ・ P R 活動に積極的に参加し、他学科を含めた本校の特徴をアピールする
- ・ 受験生の動向や入学試験結果を分析し、入学試験の課題を明らかにし改善する

4) 教育理念達成のためのカリキュラムを実践する

- ・ ディプロマ・ポリシーを達成するための具体的な教育内容・教育方法・教育評価を検討・実施する
〔看護の基礎〕において看護技術の卒業時の到達度を達成し、対象に応じた看護技術の実践ができる教育内容・教育方法・教育評価を検討・実施する。

臨床検査学科

本校の学生は、「医療に携わりたい」、「患者の役に立ちたい」という気持ちを強く持って入学してくる。彼らの思いに応えるべく、臨床検査学という専門的な知識と技術の習得と、医療人としての心を教育し、社会に役立つ臨床検査技師を育成する。また、臨床検査に関わる自動機器やAI技術が進歩する中、卒業後も長く現場で活躍できる臨床検査技師教育を視野に入れなければいけない。チーム医療に積極的に参加し、病院臨床検査室の既成概念から脱却し病棟臨床検査業務や在宅臨床検査業務、また、認知症領域臨床検査でも活躍できる人材育成を目指す。学生募集の観点では、少子化が進む中、臨床検査技師養成大学の設立が京都・大阪でも進み、本科の入学生確保は大変困難な時代に入った。今までと同じことをしている学科・学校運営が危ういことを職員全員が理解し、各学科・各教職員が協同行動をとれるよう努力する。

「心豊かな医療人の育成」

1 学科教育方針

「知識、技術、心の調和のとれた教育を実践する」

2 学科教育目標

- ① 臨床検査技師国家試験の合格に十分な基礎学力を養う
- ② 医療に貢献できる技術を養う
- ③ 医療人として備えるべき心と態度を養う

3 具体的教育目標と行動

【第一臨床検査学科・第二臨床検査学科】

- ① 知識・技術の定着を図るため、学生個々にipadを所有させ、多彩な学習資料を提供する
- ② より効果的な教育を実践するため、e-ラーニングを導入する
- ③ チーム医療を意識し、グループワークを取り入れた教育を行なう
- ④ 教育重点項目として心電図・腹部超音波・血液型判定・交差適合試験・検査データの解釈とする
- ⑤ 臨床検査技師に必要な医用工学の基礎知識を教育し、また、臨床工学技士とのダブルライセンスを目指す学生には、第2種ME技術実力検定試験合格に向けた補講をおこなう
- ⑥ 医療人として備えるべき常識や心を養える教養科目や特別講義、学外学習を計画する

4 学生募集活動

- ① 京都・滋賀・奈良を中心に高校訪問と会場形式進路相談会に参加する
- ② 参加者の満足度が高いオープンスクールを模索し開催する
- ③ 夜間部教育の存在を高校進路部、就職担当者へ紹介する
- ④ リモート説明会を積極的に運用する
- ⑤ 本校看護学科受験生の第二志望として臨床検査学科受験を受け入れる
- ⑥ 受験保護者説明会を新たに設定する
- ⑦ 他専門学校と協力し学生募集、勉強指導等を行う

臨床工学技士専攻科

近年、医療機器の多様化・高度化に伴い、その操作や管理業務に必要とされる知識・技術の専門性が高まっている。そして医療技術の発展とともに、臨床工学技士の業務内容はますます充実し、需要も増加する傾向が見られる。当科ではこのことを踏まえ、高い専門的な知識や技術を習得し、臨床の現場で活躍できる医療人の育成を目標とする。

1 教育方針

医療資格養成校出身者と理工学系大学出身者の特徴を尊重し、各々の専門性を活かしながらキャリア形成ができる環境を提供し、チーム医療に貢献できる人材育成に努める。

2 教育目標

- 1) 基礎学力をしっかり固めてから専門知識を習得して国家試験合格を目指す。
- 2) チーム医療の重要性を理解させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 3) 医療や社会的情勢に興味・関心をもたせ、探究心を育む。

3 教育計画

- 1) 臨床工学技士として必要な医療・工学科目の基礎を理解させる。
併せて学会等に参加して医療現場における役割や業務の概要を学ばせる。
- 2) 臨床実習で実際の業務を学び、臨床工学技士としての心構えを身に付けさせる。
- 3) 第2種ME技術実力検定試験を受験して医療機器の知識や技術の向上を図る。
- 4) 国家試験対策の学習指導を行う。

4 学生募集

- 1) 指定校（崇城大学）との連携体制の充実
大学4年次に本校で1年間学び、大学卒業（本校卒業）と同時に臨床工学技士免許取得を可能としたダブルスクールによる連携教育であり、長期的な定員確保に向けて取り組んでいく。連携教育7年目となる今年度もより多くの学生を受け入れるために募集活動とあわせて教育内容の充実を図る。
- 2) 大学・専門学校訪問による募集活動
理工系大学や他の医療系養成校への訪問等により受験者数増加を図る。
- 3) 内部進学希望者の増加に向けての活動
内部進学希望者を対象とした学内オープンスクールやクラス毎の学科説明会を実施して、より多くの学生への周知を図る。臨床工学技士の業務と他職種との連携の理解を深め、ダブルライセンス取得やスキルアップの向上を目指しながら、医療人としての進路選択が広がることを伝えていく。

事 務 局

学校目標の「実践力ある医療人の育成」を意識して、事務局の運営をしていきたい。学生生活への支援や、地域への貢献によって学生募集活動がスムーズにいくようにしたい。今年度は次年度の学生募集の仕方について検討する。

1. 学生生活への支援

学生生活の支援の中で事務局は学生相談室におけるカウンセリングについて運営している。臨床心理士の吉田先生と連絡を取り合いスケジュールの調整や変更をし、学生へのお知らせなどを行う。

2. 学生募集関係

学校案内と学生募集要項の更新

今年度は、2024年度生の募集活動についての検討が必要である。第二臨床検査学科の募集をするかどうかなどを検討していく

3. 地域への貢献

まちの保健室への取り組みは、企画段階から広報活動、当日の実施と幅広い範囲で実施している。広報活動については、より多くの方に参加してもらえるよう、町内へのビラ配りの範囲を広げたり、京都新聞への掲載などタイムリーな対応を行っている。今年度も新型コロナウイルス感染防止を考えながら実施できるように取り組んでいく。

4. 財政の健全な運営

今年度は昨年度より在校生の数が減少しており、収入面で非常に苦しい状態となる。従って支出面をどのように切り詰めていくかが課題となる。特に今年度も2年続きで赤字予算となっている。できる限り無駄を省き支出面を抑えられるよう努力する。また、財政を健全化させるためのアイデアを出すようにする。